

2-6 学ぶことの目的と意義

1. 題材設定の理由

学習の目的を『世間的に評判のよい高校に進学するため』と考え、「テストの点数を上げる」「入試に合格する」といった目先の目的にとらわれてしまうことが多い。

生徒について最も問題を感じるのは、目標に自分の考えや意志が希薄な時である。これでは主体的に自分の進路を切り開いていく生き方にはほど遠い。しかし、生徒にとっては具体的に、「こんな生き方をするのだ」「このような目的をもって生きていくのだ」というイメージをもつことはとても難しい。

そこで、本時においては、学ぶことの目的と意義を将来の夢や希望の実現と関わせ考えさせたい。授業にあたっては、学級の実態を調査し、そこから自分の姿を振り返ることから導入したい。この時、生徒に事前調査などを任せると、学習をつくっていく意識がより高まるだろう。

2. 指導のねらい

学ぶことの目的や意義について考えさせ、自分なりの考えを持たせて、日常の生活を振り返らせながら自己実現をめざして努力を継続していこうとする態度を育てることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・「学習の目的」についてアンケート調査を行う。
本時	・アンケート調査や資料から、学ぶ目的や意義について考える。
事後	・学習のまとめを記入させる。

<説話例>

わたしたちの町の公民館では、毎晩様々な学習講座が開かれています。その内容は、茶道や華道、書道、絵画、編み物など、実に多くの種類に渡っています。そこで学ぶ人は、みな地元の方なのですが、こんなに多くの方が学んでいるのかと驚くほどです。その一人に、わたしたちの学校の校務員のAさんもいらっしゃいます。Aさんは忙しい毎日の中から、週に一度ですが「漢詩」を学んでいるのです。わたしは、そんなAさんに「夜の学習も大変ですね。一体、どうして、漢詩を学習しようと思ったのですか」と話しかけました。すると、こんな答えが返ってきました。「わたしは、学生の頃から、詩が大好

きだったんですよ。それで、公民館の講座をのぞいてみたら、漢詩をやってましてね。いい響きで心が引かれたのですよ。この年になって、勉強するなんておかしいかもしれないけれど、新しいことを知るといのは、本当に楽しいことですね。来年の春には、仲間と、漢詩に出てくる中国の揚子江を見に行こうと思っていますよ」と。わたしは、Aさんが楽しそうに話してくださる姿を見ながら「こんなふうに、いつまでも学ぶということに喜びを感じて生きられたら、何てすばらしいのだろう」と強いあこがれを感じました。Aさんが、人生を自分の手で作り出しているように思えたからです。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・学習する目的について、学級の仲間の考えを知る。	◎事前に調査した「あなたは何のために勉強しているのか」について、どう思ったかを交流する。 ・P.34㊦を活用する。 ・仕方がないからやっている。 ・やらされているという意識の子が多い。 ・目的をもって取り組んでいる子もいる。	・結果を予想させるなど、意欲をもって授業に入っているよう工夫する。 ・「学ぶこと」の意味を考えさせるような問い返しをする。	・期末テストの前や授業の様子を問題視しているときなど、必然を感じながら答えられる時期にアンケートを行う。 ・P.34㊦
課題：「なぜ学ぶのか」ということに自分なりの考えをもち、生活を振り返ろう。				
中心的活动	・なぜ学習するのかという課題について自分の考えをはっきりとさせ、仲間と意見を交流する。 ・「学ぶ」ことの意味を考える。	◎作文「なぜ勉強するのだろうか」を読み、Y男さんの考え方について自分の意見をP.35㊧に記入し、仲間と交流する。 ・Y男さんと同じく何のために勉強するかよくわからなかった。 ・今の自分にもどのような可能性が隠れているか分からない。 ・自分の力を伸ばせるだけ伸ばしておくことが将来の自分を支えることになるかもしれない。 ・まずは目の前のテストに向けて全力で取り組むことが大切そうだ。 ◎『生き方』を学ぶ進路学習の立場から、「学ぶこと」の意味について意見を交流する。 ・点数を取ることだけが学ぶことではない。 ・体験すること全てが「学び」なんだ。 ・自分のよさを伸ばすことも学ぶことになるんだ。 ・教科で学ぶことは、ただ単に点数を上げるためとか、技術を向上させるためだけではないんだ。	・仲間の意見を「仲間の考えでなるほどと思ったこと」の欄にメモさせるようにし、ともに考える姿勢を大切にすること。 ・同じ内容でも、できるだけ多くの生徒に発言させるようにすること。 ・従兄弟の「だから、中学校のうちはすべての活動において全力で努力するんだよ。」という部分をより具体的に捉えられるようにすること。 ・学校で学ぶことだけに考えがいかないようにすること。 ・さまざまな場面を思い描かせ、いろんな場面で「学ぶ」ことができることをおさえる。 ・生活ノートに「～という体験から～ということを学んだ」とか「仲間の～という姿に、～を学んだ」という内容があれば、それを資料として使うことができる。	・P.34㊦ ・P.35㊧
まとめの活動	・自己実現に向かって学習する生き方のすばらしさに気づき、学ぶことに自分の意義を見い出す。	◎話し合いの結果をまとめ、教師の説話等を参考に、今後の生活に向けて自分の考えをP.35㊨にまとめ、仲間を発表する。 ・勉強は学校でやるものだと思っていたが、どんな場面でも学べることが分かった。 ・人として学ぶことがいろいろあることが分かった。	・教師の説話は「学ぶ」ことを広げられるような内容を用意できるとよい。 ・話し合いの結果を、学級新聞等で取り上げ、本時の学習が日常生活に生きるような指導を行いたい。	・P.35㊨